郊外・過疎地域

生涯活躍のまち上士幌MaaSプロジェクト（北海道　上士幌町）

【上士幌町、Japan Innovation Challenge実行委員会】

◆地域の課題

- 交通弱者（子どもや高齢者）に対して、「市街地中心部」と周辺市街地・農村地区間の移動の利便性向上が必要
- また、都市部からの移住・交流を促進し、地元の活性化につなげるために、町に着いてからの移動手段の充実が必要

☑ 複数移動手段活用時の利便性
☐ 公共交通・道路の混雑
☑ ラストマイルの移動手段不足
☑ 高齢者等の移動弱者の増加

METI「新しいモビリティサービスの活性化に向けて」より引用

◆将来構想の概要

- 「上士幌町交通ターミナル」を中心とした既存公共交通体系の再編と、新たなモビリティサービス(デマンド運行やMaaS、自動運転バス、移動販売車)の導入による、複数交通サービスの接続性確保、観光拠点を活用した地域活性化に寄与する観光交通の確保、また、「住民の外出機会増加」、「観光客増加/回遊性向上」、「移住者の増加」の実現

◆実証実験の概要

- ①観光施設への最適なMaaS(マルチモーダル)サービスの組合せ検証：MaaSアプリにより既存交通手段と新移動サービスを提供し、移動需要や最適な組合せ(徒歩/ﾚﾝﾀｻｲｸﾙ/ﾀｸｼｰ/ｼｪｱﾘﾝｸﾞｶｰ/(自動運転ﾊﾞｽ))を検証
- ②自動運転移動販売車による、経済活性化・効率化への効果検証：高齢者が多く居住し、交通の便が悪い団地内まで移動販売車を走らせ、キャッシュレスの買い物体験の提供、輸送余力を活用した貨客混載や、注文された商品を団地まで届ける配送事業の可能性・ニーズ調査を実施
- なお、本実証事業においては、NAVYA社の自動運転車両を活用予定
- また、インセンティブポイントの付与による需要喚起についても検証を実施

☑ カーシェア
☑ デマンド交通
☑ マルチモーダルサービス
☑ 自動走行車の活用
☑ 貨客混載
☑ ラストマイル配送無人化
☑ 移動サービスと周辺サービスの連携

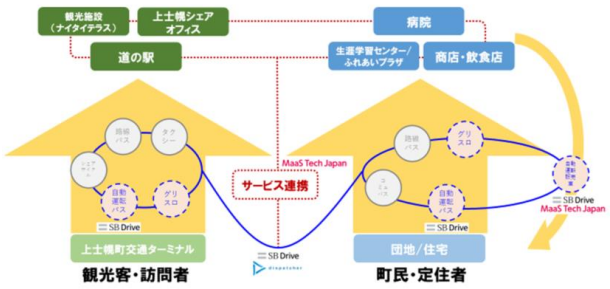
METI「『IoTやAIが可能とする新しいモビリティサービスに関する研究会』中間整理」より引用

◆対象地域

- 実証実験は上士幌町にて実施。将来的には町内で持続可能なサービスを構築し、交通利便性向上や、町の活性化をねらう

◆サービスモデル

- 発生する効果を定量化し、受益者各位が相応のコストを案分して負担することで持続可能なサービスを構築する
- 具体的には、受益者としては地域商店、観光事業者、交通事業者、不動産事業者、インフラ事業者、農業者、配送事業者などを想定



交通サービス間と目的地サービス間をICTで連携
不足する交通サービスを自動運転技術で保管

NRI Copyright（C） Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.